

## 平成 23 年 07 月 27 日 「川西町から地域おこし協力隊が来る 2」

掲載日:2011 年 7 月 27 日

### 平成 23 年 07 月 27 日 「川西町から地域おこし協力隊が来る 2」

前回の日記の続きです。

川西町の地域おこし協力隊・塗貴旭さん連れて

「朝日町でウサヒがよく行くスポット」を案内することになった、中の人・佐藤。

様々なたぐらみが錯綜し、「空気神社」に行くことにしました…



「春夏秋冬ネタ」でおなじみの空気神社です。

というのも、中の人脳裏には、

空気神社と同じくらいおすすめしたいスポットが思い浮かんでいたのです。

それは、セブンイレブンとサンクスに続く、朝日町第3のコンビニ？の存在でした。

太郎地区より朝日川にそって走ること数分…

スノーシェットを越えると見えてくるのがこちら



【注意】 これは看板であり店舗ではない

コンビニ さたけ さんです。

誤植ではなく、本当にそういう名前です。

(注: 誤植とは、謝った使い方の言葉や、誤字脱字が見落とされたまま

印刷されてしまった状態のことをさす、印刷業界の用語)

立木地区のほっとステーション、

食品と雑貨と釣りエサなどを取り扱っている総合商店です。

外観はこんな感じ



なんかいろんな「元気になる言葉」が貼ってある(自作??)

店内の様子は……

せっかくなので、ぜひ現地に行って見てみてください。

立木地区の橋のたもとに建っていますので、見逃すことはないはずですよ。

ちなみに、店内写真を一枚だけ

題名「地域最安値(中の人調べ)」



価格破壊は会議室で起こってるんじゃない、現場で起こっているんだ！

桃色ウサヒのあさひまち探検を楽しく読んでいらっしゃる方は

間違いなく楽しめます。

さて、

その圧倒的な存在感に言葉も出ない塗さんを前に、

中の人「空気神社でパンサイダー飲みたいから栓抜き貸して！」

おばちゃん「あいよー。帰りにピンを返しにきておくれよー」

と、都会の方から見たら信じられない会話（塗さん談）を成立させ、

結果、以下の物品を GET しました。



パイナップルサイダー (120 円) と栓抜き (レンタル)

充実した装備をもってやってきたのがコチラ

「空気をご神体に据えているのは朝日だけ」でおなじみの

空気神社です。



標高も高く日陰も多いので夏も心地いい

参道を登る我々。



各所のオブジェに興味津々の塗さん。

途中に大きなキノコをたくさん発見しました。



パイナップルサイダーと比べるとこんな感じ。

そしていよいよ空気神社に到着！



空気に感謝しながらパインサイダーをいただく。



そして、飲みほして下山



木に登っている途中の蟬の幼虫も見つけました。

その後、ダチョウを見て、和合平をドライブして朝日町ツアーは終了しました。

(帰りに栓抜きとピンはコンピニに返却しました)



ダチョウと触れ合う塗さん

中の人 「こんな感じでしたが塗さんどうでした？」

塗さん 「いやぁ、佐藤さん(中の人)が朝日町を楽しんでることがよくわかりました。」



最後に和合平のりんご畑をドライブしてちょっと語りあうことになった。

中の人「塗さんからみて、朝日町のいいところってなにかありました？」

塗さん「アレがいいですね。」

と、即答で指をさす塗さん。



山の方を指差す塗さん

塗さん「あの、山と空の境目の雲の感じ、色がとてもいいです。」

中の人 「それは川西にもあるものじゃないんですか？」

意外な言葉に疑問を感じる中の人。

塗さん 「でも、山の稜線の形と、雲の流れはどこも違うでしょ？」

川西の空も、朝日の雲もどっちもキレイでいいところだと思います。

僕は、こんなに開けた空の下で育ったことがないから、

山形の空は、そのひとつひとつがどれも違っていて、

それがどれもステキだと思うんですよ。」

中の人 「なるほど、山奥の空との山との境目なんて、

山形にはどこにもあるものだけど、

そのひとつひとつは個性があってそれぞれが楽しめるってコトですね。」

なんとなく「朝日町にしかないもの」を探していた僕にとって、

塗さんの「細かく見ればひとつひとつが違う」という意見は、

何か深く考えさせられるものがありました。

塗さん 「たぶん、きらりよしじまで、今、僕に出来ることがあるならば、

そういった、細かく感じとった感覚を、

いいことも悪いことも素直に伝えていくことなんだと思うんです。」

中の人 「いいですね。今度はぜひ川西で、塗さんが感じ取ったステキなスポットを

僕に紹介してください。」

塗さん「よろこんで、コンビニや空気神社に負けないスポットを紹介しますよ。」

風景は毎日変わっていった

今日の雲と空と山の境目の空間は、その日しか見れない。

だからこそ、今を一生懸命レポートすることに意味があるんだと思います。



刻々と変わっていく、朝日町の風景を眺めながら、

川西町や他の地域とももっと積極的に交流して、

朝日町の今を伝えていきたいと思ったのです。

「川西町の協力隊がやってきた編」 おわり